

A—92 成熟白ネズミによる低たん白と V. B₁ との
関係 (第1報)

低たん白食におけるN出納及び臓器類の
たん白質含量の測定

同志社女大家政 久次米哲子
松下紀美子
○阿部登茂子

1. たん白欠乏は生体内におけるアポ酵素生成を抑制するため、低たん白食は V. B₁ 欠乏症の発現をいくらか促進する事が既に報告されている。そこで私達はたん白投与量とN出納及び体内たん白分布との関係を見、種々の条件下でそれが変動する状況を調べる。

2. 成熟白ネズミを用い唯一たん白としてカゼイン、I群(10%)、II群(5%)、III群(0%)の3群に分け飼育した。飼育期間を4週間とし、その期間、体重測定及びN出納を比較検討した。飼育後心臓より採血し、血漿と、肝臓、心臓、腎臓、筋肉についてたん白質の定量を行った。

3. 体重はI群では直線的に増加し、II群は2週間後、増加は緩慢となった。III群では試験食開始と同時に減少がみられた。

N出納については、I群はほぼ正を維持し、II群もI群よりやや低値ではあるが、正を示し、III群は負を示した。

血漿たん白量は飼料中のたん白質含量の差が顕著に現われた。臓器については3群共大差は認められなかつ

た。尚臓器中のたん白含量は肝臓、筋肉中に比較的多

く、次に腎臓、心臓の順であつた。